

過去の協議会（第1～第5回）で出てきた中学校適正配置に関する主な意見

子どもたちの教育環境についての意見のみ抜粋

第3回協議会

〈A委員〉

・学校規模については、教育委員会は千城台地区の学校適正配置について中学校1校、小学校2校との考えを挙げているが、必ずしも学校規模を大きくすることが良いとは思わない。特に中学校については統合せずに2校とも残し、少人数の中で、難しい思春期の時期を教員がきめ細かく対応していける体制が良いのではと思う。小学校も、5校中1～2校減らす程度で良いのではないか。

〈事務局〉

・適正配置実施方針において、学校規模、すなわち学級数からすると千城台地区の小・中学校については小学校2校、中学校1校にするように示している。しかし、これは規模から見た場合であり通学距離や安全面なども考慮し、いろいろな状況を考えた中で、最終的に統合するかどうかの方向性を見出し決めていただきたい。小学校を先に統合するのか、中学校が先なのか等も含めて協議いただきたい。

第4回協議会

〈B委員〉

・千城台地区の適正配置では、中学校2校を1校にする根拠は何か。統合するにあたっての経済的効果もそれほどないと考えると、中学校を現状のまま残し、9学級でいく方がよいと考える。小学校については5校もあるので、現状を考えると統合を進めていった方がよいと思う。

〈事務局〉

・中学校の場合は、教員の免許制にも関わるが、小規模校のままだと、すべての教科にその教科の免許を持った教員がつくことが難しくなる。また、部活動については、部活動数も限られ、担当教員も複数でつくことができなくなる。経費の問題ではなく、教育環境は良いとはいえない状況になってしまう可能性がある。

〈C委員〉

・どちらの中学校も、28年度には各学年3学級となり全体で9学級となるが、そのまま2校を残していく中で、交流しながら切磋琢磨することもできるであろう。部活動の指導については、地域に協力をお願いして、指導者の確保もできる。小規模校であると、教員1人が複数の教科を担当するということもあり、教育委員会にもお願いし、加配教員等対応していればと考える。

〈D委員〉

・中学校の部活動では、夏の総体が終わると、新人戦に向けて1・2年が活動していくときに、集団スポーツ等の人数が足りなくなる。また小規模校だと、教員の数も少なく、部活数も限られてしまう。こういうことも考えて、中学校の統合も考えていただきたい。

第5回協議会

〈E委員〉

・中学校については2校を存続する方向が大多数であった。よって、中学校については2校を残すことが良いのではないか。

〈議長〉

・中学校についての方向性を決定する前に、小学校が土台となっているので、まずは小学校についての適正配置を十分協議してから、中学校について決定しても遅くはないと考える。

以降、小学校の適正配置の必要性を先に協議を行った。